

5 検討の進め方

検討にあたっては、以下の点に留意する必要があります。

○ 多様な関係者との連携

中心市街地は都市の顔であることから、先進的な取組を進める国内外のまちづくりを参考に、国や県等の行政機関、鉄道事業者やバス事業者等の交通事業者、商工会議所など、多岐にわたる関係機関との連携について検討していくことが必要と考えられます。

○ 市民の参画

中心市街地は市民が生活する上で大変重要な場所であり、市民のまちに対する愛着心や誇りを持つことができるよう、事業の立上げ時から市民が参画することが大切です。特に、高校生など若い世代が将来も住み続けたいと思うようなまちになるためには、多くの市民が参画することは大切です。

ワークショップ等の開催により市民意見を直接伺うことや、公開会議の開催による情報発信、シンポジウム・セミナー等の開催による市民意識の醸成など、多くの市民が参画できる機会を設けることについて検討していくことが必要と考えられます。

○ 専門家の知見

総合整備事業全体を見渡した空間デザインの検討や、駅南口駅前広場の再編の検討、中心市街地における交通戦略の検討など、都市交通や市街地開発、都市景観、まちづくり支援など様々な分野の専門家から知見を得ることについて検討していくことが必要と考えられます。

○ 事業の長期性を考慮

総合整備事業は、複数の事業が同時に進捗しているものであり、段階的にまちの姿が変わっていきます。このため、事業完了時のまちの姿だけでなく、スピード感を持って短期的に取り組むものと両面から検討していくことが必要と考えられます。

○ 複数のプロジェクトの調整

駅前広場の整備、鉄道高架構造物の整備、駅舎の建築、街路整備、街区内の建築物の再構築等の複数のプロジェクトがあるため、プロジェクト単体ではなく、全体の都市デザインを実現するため各事業間の連携、調整等について検討していくことが必要と考えられます。

○ 地域のマネジメントの視点

これからのまちづくりは、にぎわいや活気に満ちた都市空間の形成に向けたプロジェクトを実施した後についても、地域の価値や魅力を維持することや、高めていくことが大切です。

このため、地域に関わる多様な主体が役割分担を行い、街並みや公共空間の維持・管理・活用を図っていく視点が必要と考えられます。